

## 海外の畜産物の需給動向

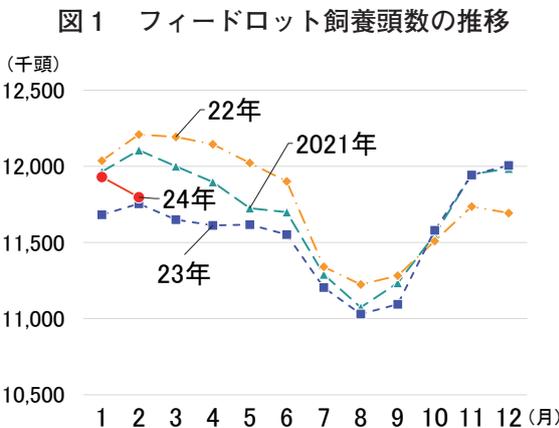
# 牛肉

### 米国

## 23年の牛肉輸出量、前年比14.3%減

### 24年1月の牛総飼養頭数は前年比1.9%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年2月1日時点のフィードロット飼養頭数は1179万7000頭（前年同月比0.4%増）とわずかに増加した（図1）。



USDA/NASSが1月31日に公表した最新の米国の牛飼養動向によると、牛総飼養頭数は8715万7000頭（前年比1.9%減）と過去2カ年の干ばつの影響により、1951年以來の最低水準（注1）とされている（表1）。内訳を見ると、繁殖雌牛（肉用牛）が同2.5%減、未経産牛（肉用牛）が同1.4%減とそれぞれ

減少している。また、子牛（同2.7%減）も減少していることから、短期での増頭は見込めず、今後数年にかけてさらなる頭数の減少が予測されている。

（注1）海外情報「24年1月の牛飼養頭数、1951年以來の最低水準に（米国）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003704.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003704.html)）を参照されたい。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	92,077	88,841	87,157	▲1.9%
繁殖雌牛	39,360	38,337	37,580	▲2.0%
肉用牛	29,983	28,939	28,223	▲2.5%
乳用牛	9,377	9,398	9,357	▲0.4%
未経産牛 ※1	19,916	18,761	18,483	▲1.5%
肉用繁殖後継牛	5,482	4,930	4,858	▲1.4%
乳用繁殖後継牛	4,441	4,074	4,059	▲0.4%
その他	9,994	9,758	9,566	▲2.0%
去勢牛 ※1	16,705	16,057	15,789	▲1.7%
種雄牛 ※1	2,110	2,029	2,021	▲0.4%
子牛 ※2	13,986	13,658	13,285	▲2.7%

資料：USDA「Cattle」

注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。

注2：各年1月1日現在。

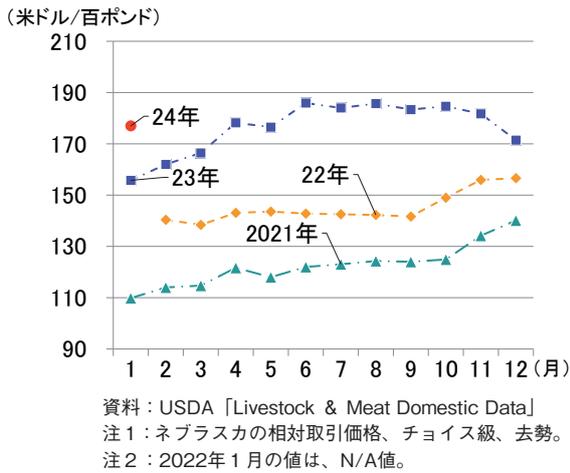
### 24年1月の肥育牛価格、前年同月比13.6%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年1月の肥育牛価格は100ポンド当たり177.0米ドル（1キログラム当た

り592円：1米ドル＝151.67円<sup>(注2)</sup>、前年同月比13.6%高)とかなり大きく上昇し、肥育牛供給が減少する中で堅調な需要を背景に高水準で推移している(図2)。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



### 23年の牛肉輸出量は前年比14.3%減、輸入量は同9.9%増

USDA/ERSによると、2023年12月の牛肉輸出量は11万4464トン(前年同月比

5.3%減)とやや減少した(表2)。また、23年累計(1～12月)では137万7900トン(前年比14.3%減)とかなり大きく減少し、3年ぶりに前年を下回った。輸出先別に見ると、最大の輸出先となった韓国向けは30万5057トン(同17.2%減)、続く日本向けは28万9876トン(同21.7%減)、中国向けは22万7783トン(同19.9%減)とそれぞれ大幅に減少した。一方、メキシコ向けは堅調な需要により、14万4130トン(同12.2%増)とかなり大きく増加した。

23年の牛肉輸入量は、国内生産量が減少する中、堅調な需要により169万トン(同9.9%増)とかなりの程度増加した。輸入先別では豪州が、同国内での生産量の回復から同66.0%増と大幅に増加した。

24年の牛肉輸入量についてUSDAは、引き続き国内生産量の減少が見込まれることから、187万トン(同10.7%増)とかなりの程度増加すると予測している。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	23年 (1～12月)	
					前年比 (増減率)	
韓国	30,453	28,925	▲5.0%	25.3%	305,057	▲17.2%
日本	29,991	21,503	▲28.3%	18.8%	289,876	▲21.7%
中国	14,412	17,248	19.7%	15.1%	227,783	▲19.9%
メキシコ	13,249	14,896	12.4%	13.0%	144,130	12.2%
カナダ	9,945	9,834	▲1.1%	8.6%	122,310	▲1.6%
台湾	6,112	5,191	▲15.1%	4.5%	84,615	▲6.8%
香港	2,688	3,522	31.0%	3.1%	41,495	13.0%
その他	13,997	13,346	▲4.6%	11.7%	162,634	▲20.5%
合計	120,847	114,464	▲5.3%	100.0%	1,377,900	▲14.3%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]  
 注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

## 豪州

# 23年第4四半期、雌牛の保留などでと畜頭数と牛肉生産量は減少

## 24年2月の肉牛価格、約10カ月ぶりの高値を記録

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格（2月26日時点）は、1キログラム当たり628豪セント（627円：1豪ドル＝99.88円<sup>（注1）</sup>）となった（図1）。同価格は2024年2月初旬に同679豪セント（678円）と昨年4月並みの水準に回復し、その後は若干の下落があるものの横ばいで推移している。豪州気象局によると、24年2月末現在、牧草の生育を阻害する乾燥した気象をもたらすエルニーニョ現象の発生は継続しているが、4月には終息を迎える予想されている。他方で現地報道によると、家畜市場への十分な肉牛の出荷があるものの、主要飼養地域であるクイーンズランド州では、特に肥育農家からの需要が高いとされ

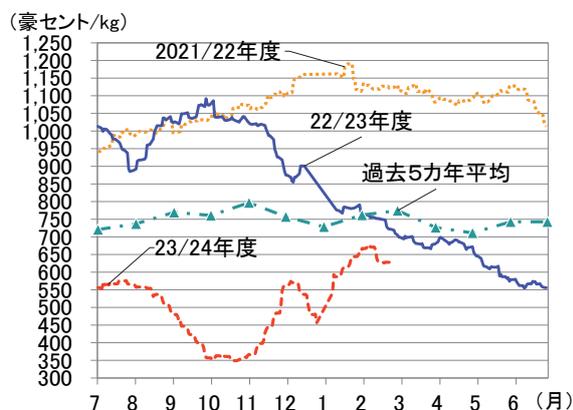
るため、一部の市場関係者は、今年7～8月にはEYCIが同800豪セント（799円）まで上昇すると予想している。また、豪州フィードロット協会（ALFA）とMLAが四半期ごとに共同で実施している全国フィードロット飼養動向調査によると、23年10～12月期末のフィードロット飼養頭数は129万4531頭と過去最高を記録していることから、気象に左右されないフィードロットでの肥育需要の高まりが考えられる<sup>（注2）</sup>。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。  
（注2）海外情報「2023年12月末のフィードロット飼養頭数、収容可能頭数ともに過去最高を更新（豪州）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003723.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003723.html)）を参照されたい。

## 23年10～12月のと畜頭数、牛肉生産量はいずれも減少

豪州統計局（ABS）が2024年2月に公表した統計によると、23年10～12月期の牛のと畜頭数は185万頭（前期比3.3%減）、牛肉生産量は57万8900トン（同1.8%減）といずれも減少に転じた（図2）。現地報道によると、同年11月以降、一定の降雨量により牧草を確保できたことから、雌牛を保留する動きや牧草肥育牛の肥育期間の長期化が見られたとされており、直近の雌牛と畜割合（FSR）からも牛群整理に歯止めがかかったことがうかがえる（図3）。

図1 EYCI価格の推移

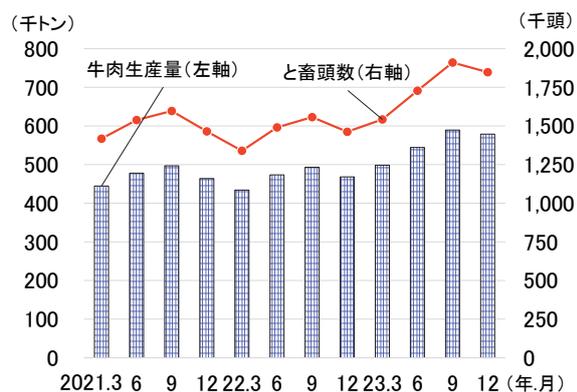


資料：MLA [National Livestock Reporting Service]

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 牛肉生産量および畜頭数の推移



資料：ABS  
 注1：四半期ごとの数値。  
 注2：生産量は枝肉重量ベース、と畜頭数は子牛を除く。

図3 雌牛と畜割合 (FSR) の推移



資料：ABS  
 注：四半期ごとの数値。

## 24年1月の牛肉輸出量、米国を中心に大幅増

豪州農林水産省 (DAFF) によると、2024年1月の牛肉輸出量は7万5585トン (前年同月比46.9%増) と大幅に増加した (表)。

同月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向けは2万308トン (同2.3倍) と大幅に増加し、引き続き同国内の牛肉生産量の減少が輸出を後押ししている。また、日本や中国向けも、同3割を超える大幅な増加となった。またMLAによると、東南アジアでは、西洋料理のほか、日本料理や韓国料理などの外食需要の高まりが牛肉を中心とした赤身肉の消費拡大の原動力になっているとしている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2023年 1月	24年 1月	前年同月比 (増減率)
米国	8,953	20,308	126.8% (約2.3倍)
日本	11,954	16,331	36.6%
中国	10,556	14,100	33.6%
韓国	10,125	11,682	15.4%
東南アジア	4,426	5,086	14.9%
中東	1,796	2,212	23.1%
E U	540	777	43.9%
その他	3,120	5,088	63.1%
輸出量合計	51,471	75,585	46.9%

資料：DAFF  
 注1：船積重量ベース。  
 注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。  
 注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦 (七つの首長国のうち四つの首長国 (アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル=ハイマ))。

(調査情報部 国際調査グループ)

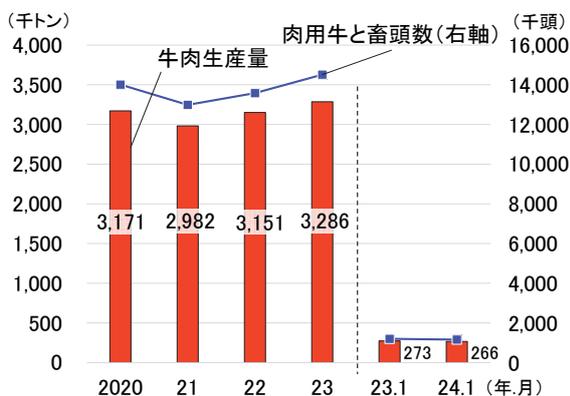
## アルゼンチン

# 23年の牛肉生産量、肉用牛と畜頭数は干ばつの影響で前年比増

## 23年牛肉生産量は前年比4.3%増と2年連続で増加

アルゼンチン経済省によると、2023年の牛肉生産量は328万6000トン（前年比4.3%増）と前年をやや上回り、2年連続での増加となった（図1）。これは、23年前半を中心に70年ぶりといわれる厳しい干ばつに見舞われたことで、水不足や牧草に深刻な影響が及び、牛の保留が困難となった牛肉生産者が、と畜場やフィードロット向けの出荷を増やしたためとみられる。11～12月には降雨が見られたものの、同年の肉用牛と畜頭数は1451万3000頭（同6.9%増）と前年をかなりの程度上回った。特に雌牛の淘汰が進んだことで、と畜頭数に占める雌牛の比率は一時50%に達するなど、繁殖資源が減少した。

図1 牛肉生産量および肉用牛と畜頭数の推移



資料：アルゼンチン経済省  
注：牛肉生産量は枝肉重量ベース。

一方、24年1月の牛肉生産量は26万6000トン（前年同月比2.5%減）と前年同月をわずかに下回った。24年は前年末の降雨などにより飼養環境の改善が見込まれることで、牛の保留傾向が強まることから、肉用牛と畜頭数は前年を下回るとみられている。

## 23年牛肉輸出量は増加も、輸出単価は大幅に下落

アルゼンチン国家統計院（INDEC）によると、2023年の牛肉輸出量は67万3409トン（前年比8.2%増）と前年をかなりの程度上回った（表）。一方、輸出単価は1トン当たり4044米ドル（61万3353円：1米ドル＝151.67円<sup>（注）</sup>、同25.8%安）と大幅に下落したため、輸出額は27億2299万7000米ドル（4129億9695万円、同19.7%減）と前年を大幅に下回った。

輸出量全体の8割を占める中国向けは53万6748トン（同9.4%増）とかなりの程度増加したものの、輸出単価は同3121米ドル（47万3362円、同32.4%安）と前年を大幅に下回った。これは、中国経済の動向が不透明な状況下で同国の牛肉消費が停滞していることや同国内生産量の増加、さらに、豪州産牛肉などとの競合などにより、取引価格の下落につながったとみられる。また、イスラエル、ドイツおよび米国などの主要輸出相手先についても、輸出単価は前年比で1～2割程度下落した。

表 牛肉輸出量および輸出額の推移

	2022年			23年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	490,632	2,265,242	4,617	536,748	1,675,368	3,121	9.4%	▲ 26.0%	▲ 32.4%
イスラエル	31,418	236,100	7,515	37,211	226,447	6,085	18.4%	▲ 4.1%	▲ 19.0%
ドイツ	23,973	257,712	10,750	24,648	250,636	10,169	2.8%	▲ 2.7%	▲ 5.4%
米国	20,848	129,014	6,188	23,888	129,071	5,403	14.6%	0.0%	▲ 12.7%
チリ	22,974	171,186	7,451	19,022	137,939	7,252	▲ 17.2%	▲ 19.4%	▲ 2.7%
オランダ	16,950	168,043	9,914	16,095	153,299	9,525	▲ 5.0%	▲ 8.8%	▲ 3.9%
ブラジル	6,160	66,970	10,872	5,809	56,297	9,691	▲ 5.7%	▲ 15.9%	▲ 10.9%
イタリア	4,008	45,163	11,268	3,763	40,671	10,808	▲ 6.1%	▲ 9.9%	▲ 4.1%
ポルトガル	384	3,539	9,216	1,499	11,327	7,556	290.4%	220.0%	▲ 18.0%
その他	4,841	47,844	9,883	4,726	41,944	8,875	▲ 2.4%	▲ 12.3%	▲ 10.2%
合計	622,188	3,390,812	5,450	673,409	2,722,997	4,044	8.2%	▲ 19.7%	▲ 25.8%

資料：INDEC

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

## 24年1月の肥育牛（去勢）出荷価格、前年同月比4.3倍に上昇

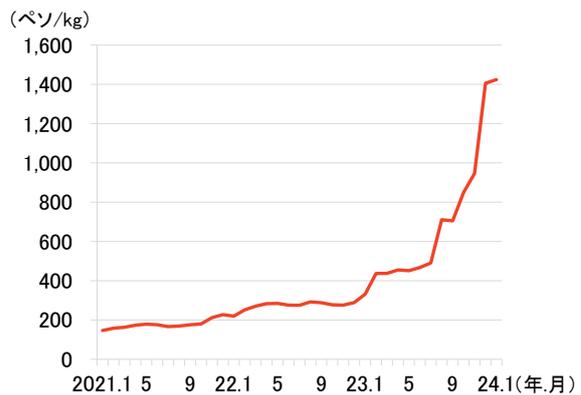
肥育牛（去勢）の出荷価格は2023年1月以降、干ばつの影響により家畜の出荷頭数が増加する中で大幅に上昇している（図2）。同国の肉用牛相対取引の指標となるリニエルス家畜市場の24年1月の取引価格は、生体1キログラム当たり1424.20ペソ（256円：1ペソ＝0.18円<sup>（注）</sup>）と、前年同月比4.3倍となった。これは、不安定な経済状況を反映した急激なインフレに加え、23年12月12日に実施された50%を超える公式為替レート（Selling）の切り下げなどの影響とみられる。

アルゼンチンでは23年12月10日に新政権が発足し、低迷する経済を立て直すため、その主な原因である財政問題の解決に着手した。しかし、現時点で新政権が打ち出す政策実現性の道筋は見ておらず、今後の同国の

牛肉需給を見通す上で、天候と並び大きな不確定要素となっている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン経済省

注：リニエルス家畜市場における肥育牛（去勢）生体1キログラム当たりの価格。

（調査情報部 井田 俊二）

# 豚肉

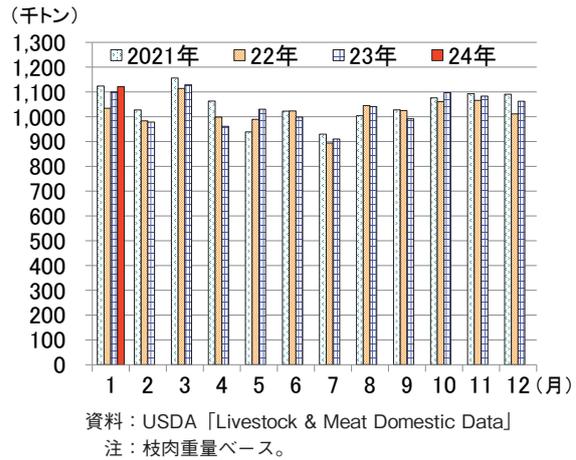
## 米国

### 23年の豚肉輸出量は前年比7.5%増

#### 24年1月の豚肉生産量、と畜頭数の増加から前年同月比2.0%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年1月の豚と畜頭数は1136万8700頭（前年同月比2.1%増）とわずかに増加した。カナダからのと畜向け生体豚輸入頭数の増加などが要因とみられる。また、同年1月の豚肉生産量は、と畜頭数の増加により112万1600トン（同2.0%増）とわずかに増加した（図1）。24年の生産見込みについてUSDAは、23年後半（7～12月）の分娩頭数増加により、前月予測から4万1000トン引き上げた1264万6000トン（前年比2.1%増）とした。

図1 豚肉生産量の推移



#### 23年12月の豚肉輸出量、前年同月比14.5%増

USDAによると、2023年12月の豚肉輸出量は29万2000トン（前年同月比14.5%増）、同年1～12月の累計では309万2500トン（前年比7.5%増）といずれも増加した（表）。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～12月)	
					前年比 (増減率)	
メキシコ	97.8	113.1	15.6%	38.7%	1,163.9	9.8%
日本	34.5	38.4	11.4%	13.1%	485.9	▲1.3%
韓国	20.0	34.1	70.4%	11.7%	268.7	10.3%
カナダ	19.8	21.0	6.1%	7.2%	253.1	8.3%
中国・香港	28.9	14.5	▲49.9%	5.0%	239.7	▲17.2%
コロンビア	9.5	12.9	35.9%	4.4%	126.1	▲3.5%
豪州	3.7	12.6	236.9% (約3.4倍)	4.3%	93.7	90.0%
ドミニカ共和国	12.0	11.5	▲4.3%	3.9%	128.3	13.5%
パナマ	7.7	9.0	16.9%	3.1%	17.8	▲14.8%
ホンジュラス	6.9	5.6	▲17.8%	1.9%	65.5	10.0%
その他	14.1	19.3	36.6%	6.6%	249.7	35.0%
合計	255.0	292.0	14.5%	100.0%	3,092.5	7.5%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]  
注：枝肉重量ベース。

12月の輸出量を輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは旺盛な需要から前年同月比15.6%増とかなり大きく増加した。また、欧州産豚肉の価格競争力が低下する中で、韓国向けは同70.4%増、豪州向けは同約3.4倍といずれも前年同月を大幅に上回った。24年の輸出見込みについてUSDAは、12月の好調な輸出を受けて前月予測から9万5000トン引き上げ、321万1000トン（前年比3.8%増）とした。

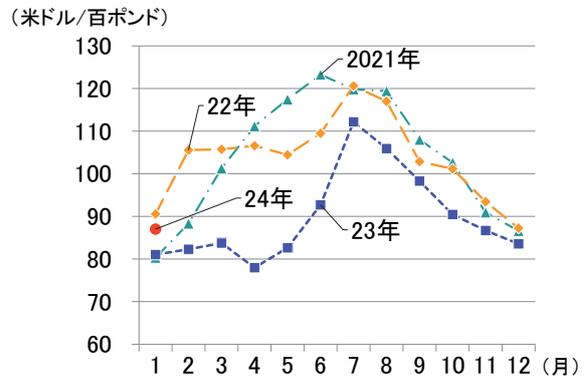
## 24年1月の豚肉卸売価格、前年同月比7.4%高

USDAによると、2024年1月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー<sup>(注1)</sup>）は、バラ肉などの旺盛な需要から100ポンド当たり87.01米ドル（1キログラム当たり291円：1米ドル＝151.67円<sup>(注2)</sup>、前年同月比7.4%高）と前年同月をかなりの程度上回った（図2）。一方、同月の肥育豚価格は、と畜頭数の増加から100ポンド当たり49.83米ドル（1キログラム当たり167円、同7.4%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。ただし、前月比では2.3%高と6カ月ぶりに上昇に転じている。今後の動向についてUSDAは、好調な豚肉需要が肥育豚価格を下支えすると見込んでいる。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

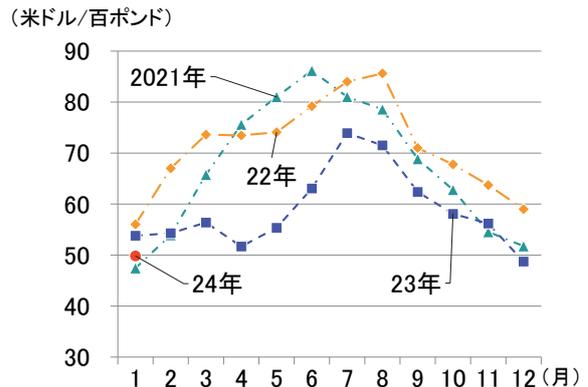
図2 豚肉卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

注：カットアウトバリュー。

図3 肥育豚価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

注：平均的な枝肉（赤身率51～52%、背脂肪厚0.80～0.90インチ）が生産される肥育豚の推定取引価格。

（調査情報部 小林 大祐）

## E U

# 豚肉生産量の減少が続き、枝肉価格は高値を維持

## 23年11月の豚肉生産量、減少傾向は変わらず

欧州委員会によると、2023年11月の豚肉生産量（EU27カ国）は、185万トン（前

年同月比3.9%減）とやや減少し、22年6月から18カ月連続で前年同月を下回った（図1）。同月の1頭当たり枝肉重量は94.6キログラム（同1.4%増）とわずかに増加したが、と畜頭数が1952万頭（同5.3%減）とやや

減少したことが影響した。欧州委員会が23年12月に公表した中期見通しによると、厳しい環境規制や輸出需要の減退により、EUの豚肉生産量は今後も減少傾向で推移すると見込まれている。

23年11月の生産量を主要生産国別に見ると、生体輸入や母豚数が増加しているポーランド（同3.9%増）、アフリカ豚熱（ASF）発生の影響から回復基調にあるイタリア（同8.8%増）は、いずれも前年同月を上回った（表1）。一方で、スペイン（同3.7%減）やドイツ（同1.8%減）などの多くの国が前年同月を下回ったことにより、全体としては減産になった。

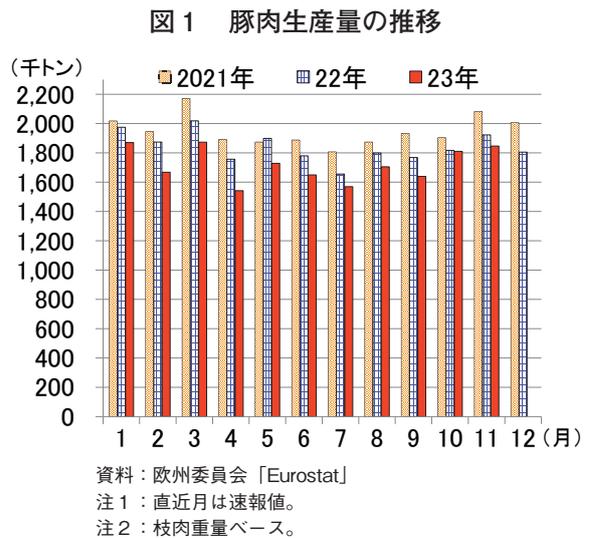


表1 主要生産国別豚肉生産量の推移

（単位：千トン）

	2022年 11月	23年 11月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～11月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	473	455	▲ 3.7%	4,461	▲ 3.9%
ドイツ	390	383	▲ 1.8%	3,841	▲ 6.8%
フランス	177	175	▲ 1.3%	1,898	▲ 3.6%
ポーランド	155	161	▲ 3.9%	1,606	▲ 2.5%
オランダ	142	131	▲ 7.9%	1,345	▲ 13.6%
デンマーク	139	101	▲ 27.3%	1,185	▲ 21.0%
イタリア	96	104	▲ 8.8%	1,105	▲ 3.4%
その他	351	336	▲ 4.0%	3,456	▲ 6.3%
合計	1,922	1,846	▲ 3.9%	18,896	▲ 6.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：枝肉重量ベース。

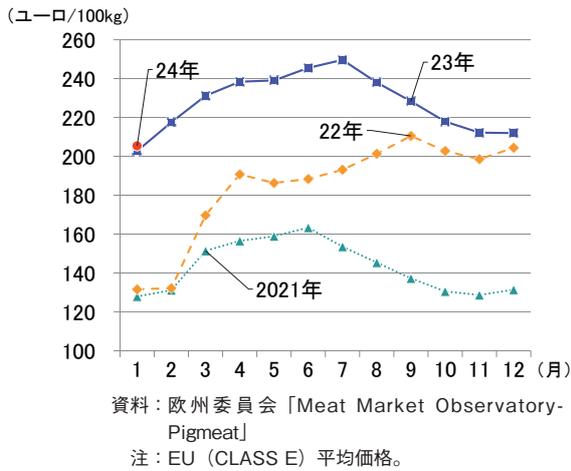
## 24年1月の豚枝肉卸売価格、高値が続く

欧州委員会によると、2024年1月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比1.3%高の100キログラム当たり205.37ユーロ（3万3835円：1ユーロ＝164.75円<sup>(注)</sup>）となった（図2）。同価格は21年11月から前年同月を上回って推移しており、豚肉生産量の減少を背景に歴史的な高値が継続している。週別の価格動向を見ると、23年

12月から1月にかけて下落したものの、2月に入り在庫の減少から上昇に転じ、直近2月12日の週は前週から4.84ユーロ（797円）高の同208.08ユーロ（3万4281円）となった。欧州委員会の中期見通しによると、生産コストの上昇とEU域内での供給ひっ迫により、24年の同価格は高値での推移が見込まれている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



## 23年の豚肉輸出量、アジア向けを中心に大幅減

欧州委員会によると、2023年12月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、17万7909トン（前年同月比22.5%減）と大幅に減少した（表2）。また、23年累計

（1～12月）でも前年比27.3%減と大幅に減少し、英国を除くすべての主要輸出先で大きく減少した。現地報道によると、ASFの発生や、環境規制の実施による域内生産量の減少に伴う価格競争力の低下により、アジア諸国向けを中心に輸出量が減少したとされている。一方、同年の英国向け輸出量は34万7047トン（同10.6%増）とかなりの程度増加した。英国農業園芸開発委員会(AHDB)によると、23年の英国の豚肉生産量は過去5年で最も少なく、国内の豚肉需要が高まる中で、より安価なEU産への需要が高まったためとされている。

欧州委員会の中期見通しによると、EU域外への豚肉輸出量については、これらの複合的な要因により、今後数年間は減少すると予測されている。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）の推移

（単位：トン）

	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	23年 (1～12月)	
					前年比 (増減率)	
中国	96,843	38,569	▲ 60.2%	21.7%	573,241	▲ 37.7%
英国	24,668	25,286	2.5%	14.2%	347,047	10.6%
日本	30,650	22,156	▲ 27.7%	12.5%	292,223	▲ 22.9%
韓国	17,412	38,866	123.2%	21.8%	214,640	▲ 15.0%
フィリピン	5,077	8,207	61.7%	4.6%	110,841	▲ 44.6%
豪州	7,063	3,967	▲ 43.8%	2.2%	66,404	▲ 44.8%
その他	47,972	40,858	▲ 14.8%	23.0%	517,987	▲ 29.4%
合計	229,685	177,909	▲ 22.5%	100.0%	2,122,383	▲ 27.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

## 豚肉価格の低迷を背景に繁殖雌豚頭数は適切な水準に近づく

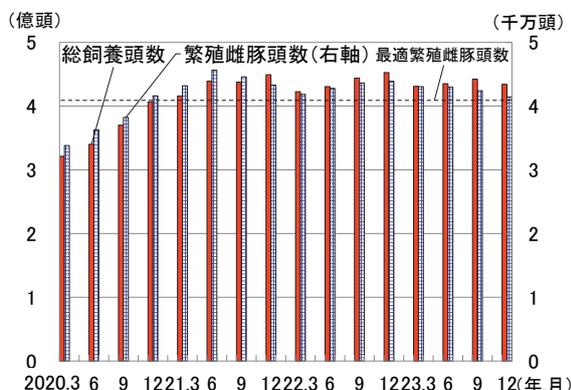
### 23年12月末の繁殖雌豚頭数、減少により適切な水準に近づく

中国農業農村部によると、2023年12月末時点の繁殖雌豚頭数は4142万頭（前年同月比5.7%減）と前年同月をやや下回った（図1）。同頭数は同年3月末以降減少傾向にあり、中国農業農村部が最適な飼養規模として

いる4100万頭に近づいた（注1）。

（注1）中国農業農村部は2024年3月1日、「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。詳細は海外情報「中国農業農村部、豚の飼養頭数調整のための方策を改訂（中国）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003728.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003728.html)）を参照されたい。なお、本稿では2023年12月時点の記述のため、改訂前の最適繁殖雌豚頭数を使用した。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局  
注：四半期ごとの公表値。

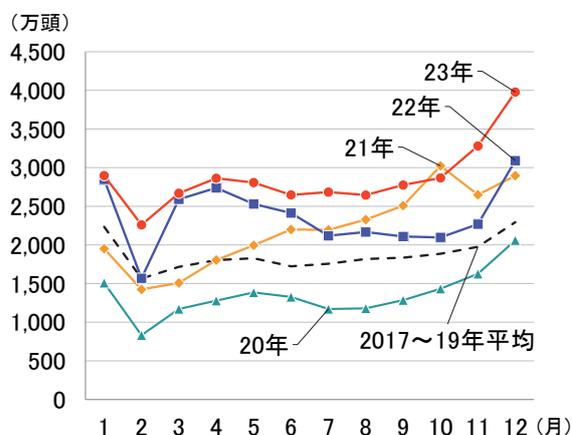
### 23年12月の豚と畜頭数、引き続き前年同月を大幅に上回る

2023年12月の豚と畜頭数は、3978万頭（前年同月比28.7%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。中国農業農村部によると、飼養規模が過大となる中で、多くの生産者が24年2月の春節需要に向けて安定的な豚肉

の供給を確保できるように肥育スケジュールを組み、年末に向けて出荷したことが要因とされている。

また、23年の豚肉生産量は、と畜頭数が前年を上回って推移したことで、5794万トン（前年比4.6%増）と前年をやや上回った。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部  
注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

### 24年1月の豚肉価格は引き続き安値で推移

2024年1月の豚肉価格は、23年末のと畜頭数増加による豚肉供給量の増加から前月比1.2%安の1キログラム当たり24.4元（517円：1元＝21.18円（注2））となった（図3）。今後の豚肉価格について中国農業農村部は、繁殖雌豚頭数が適切な水準を上回る中で豚肉の供給能力は十分であり、また、国内の豚肉在庫量も前年を上回る水準にあること、さらに、春節後の需要の一服感から、さらなる下落が見込まれている。一方で、現地関係者によると、大規模生産者からは24年

の豚肉市場を楽観視する声も出ているとされる。これは、春節後の短期的な価格の下落は想定しつつも、繁殖母豚頭数の継続的な減少から24年の豚肉生産量は前年を下回り、需給が締まることを期待することによる。

また、24年1月の子豚価格は、同0.2%安の同23.2元（491円）となった。中国農業農村部によると、1月前半の子豚価格は下落

傾向にあったが、24年の第3四半期（7～9月）以降の豚肉需給状況の回復に期待する大規模生産者が、子豚の自家保留を進め、出荷を絞る動きがあったことを受けて、1月後半の子豚価格は反発したとされている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

### 23年の豚肉輸入量は前年を下回る

2023年の豚肉輸入量は154万627トン（前年比11.6%減）と前年をかなり大きく下回った（表）。中でも、アフリカ豚熱の発生に起因した中国の輸入需要で20～21年にかけて大きく伸ばしたEUは、供給減などにより減少が顕著となった。23年当初は、22年末の豚肉価格の高騰により輸入量が前年を上回る状況が続いたが、と畜頭数や豚肉生産量の増加に伴って輸入量は次第に減少し、11月と12月は前年の輸入量の約5割の水準にまで落ち込んだ。

図3 豚肉および子豚価格の推移

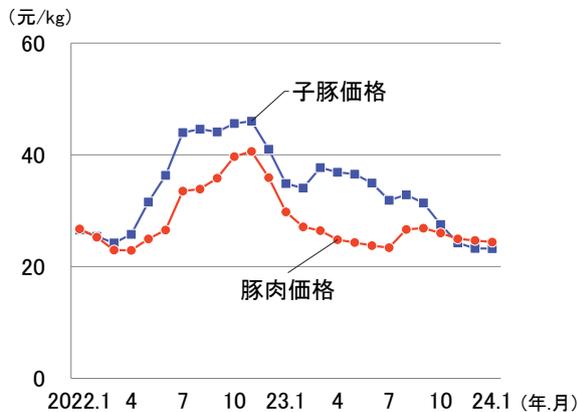


表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年	前年比 (増減率)
ブラジル	22.2	48.1	54.6	41.7	40.2	▲ 3.5%
スペイン	38.2	93.4	109.8	46.9	37.8	▲ 19.4%
カナダ	17.2	41.1	23.6	11.4	13.2	▲ 15.7%
米国	24.5	69.6	39.8	12.6	12.3	▲ 2.8%
オランダ	16.0	26.5	27.7	12.3	12.0	▲ 2.1%
デンマーク	16.4	36.0	35.2	19.4	11.4	▲ 41.2%
その他	64.9	115.8	66.8	30.1	27.1	▲ 9.7%
合計	199.4	430.4	357.4	174.4	154.1	▲ 11.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

# 鶏肉

## 米国

### 23年の鶏肉輸出量は前年比0.3%減、24年も減少の見込み

#### 24年1月の鶏肉生産量、前年比2.0%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年の鶏肉生産量は、処理羽数が減少（前年比0.5%減）する中で生体重量の増加（同0.9%増）から、2103万9000トン（同0.4%増）とわずかに増加した（表1）。

また、24年1月の鶏肉生産量は、処理羽数、

生体重量いずれも増加したことで183万8000トン（前年同月比2.0%増）とわずかに増加した。

同年の鶏肉生産量についてUSDAは、孵化場における肉用鶏卵の導入数の増加、飼料価格高騰の緩和による生体重量の増加などにより、前月予測から4万5000トン引き上げ、前年比0.8%増と見込んでいる。

表1 鶏肉生産量の推移

	2022年 (1～12月)	23年 (1～12月)	前年比 (増減率)	24年 1月	前年同月比 (増減率)
生産量（千トン）	20,959	21,039	0.4%	1,838	2.0%
処理羽数（百万羽）	9,431	9,380	▲0.5%	815	1.4%
生体重量（キログラム/羽）	2.94	2.97	0.9%	2.98	0.6%

資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注1：連邦食肉検査済みのもの。

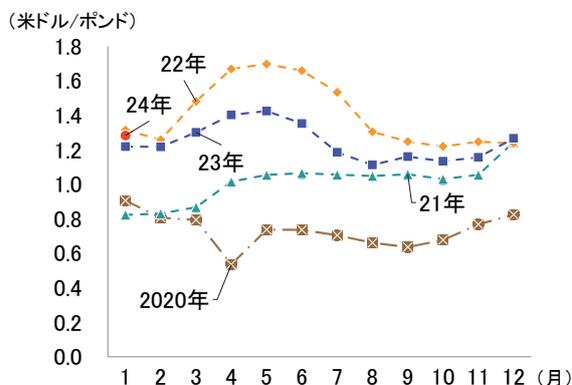
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

#### 24年1月の卸売価格、前年同月比5.3%高

USDA/ERSによると、2024年1月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.28米ドル（1キログラム当たり429円：1米ドル＝151.67円<sup>（注1）</sup>、前年同月比5.3%高）とやや上昇した（図1）。

また、同月末の冷凍鶏肉在庫量は36万1671トン（同3.6%減）とやや減少した（図2）。特に堅調な輸出需要により、レッグ・クォーター<sup>（注2）</sup>の冷凍在庫量が同19%減、

図1 鶏肉卸売価格の推移



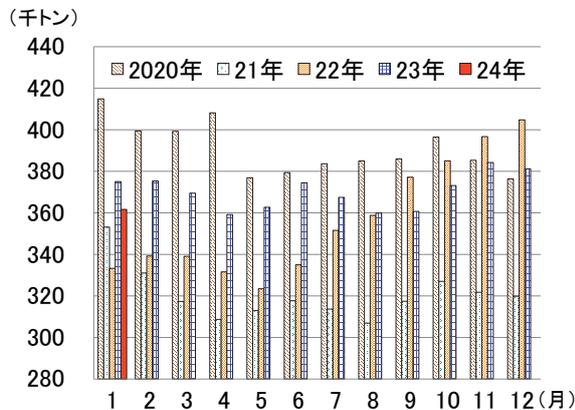
資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

ウイング（手羽）が同16%減といずれも大幅に減少している。

同年の卸売価格についてUSDAは、牛肉は国内生産量の減少から価格が高騰する中で、鶏肉需要の増加が見込まれるとして、1ポンド当たり平均1.27米ドル（同425円、前年比3.0%高）と高値での推移を予測している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。  
(注2) プロイラーを4分の1にカットしたもの。ドラムスティックと上モモに背肉の半分が付着したもので米国産の多くが輸出に仕向けられる。

図2 冷凍鶏肉在庫量の推移



資料：USDA「Cold Storage」  
注：各月末在庫。

## 23年の鶏肉輸出量、前年比0.3%減

USDA/ERSによると、2023年12月の鶏肉輸出量は29万2642トン（前年同月比7.4%増）とかなりの程度増加した（表2）。一方、23年累計（1～12月）では329万5081トン（前年比0.3%減）と前年並みとなった。輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けが、堅調な需要から72万385トン（同8.6%増）とかなりの程度増加し、続く台湾向けも27万2023トン（同15.7%増）とかなり大きく増加した。一方、需要の減退から中国やフィリピン向けなどが減少したことで、輸出量全体を押し下げる結果となった。

24年の鶏肉輸出量についてUSDAは、国内需要が堅調で価格も高値となり、価格競争力の低下などから前年を0.7%下回ると予測している。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～12月)	
					前年比 (増減率)	
メキシコ	61,007	61,369	0.6%	21.0%	720,385	8.6%
台湾	17,308	30,268	74.9%	10.3%	272,023	15.7%
キューバ	26,320	26,968	2.5%	9.2%	260,555	▲5.9%
フィリピン	10,474	16,579	58.3%	5.7%	172,917	▲7.6%
グアテマラ	8,138	13,021	60.0%	4.4%	143,943	12.1%
カナダ	10,572	10,471	▲1.0%	3.6%	142,338	▲6.8%
ジョージア	10,442	9,434	▲9.6%	3.2%	165,773	109.7%
アンゴラ	17,410	9,420	▲45.9%	3.2%	103,720	▲42.2%
中国	9,933	3,812	▲61.6%	1.3%	127,493	▲7.2%
その他	100,844	111,299	10.4%	38.0%	1,270,048	0.3%
合計	272,448	292,642	7.4%	100.0%	3,295,081	▲0.3%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」  
注1：製品重量ベース。  
注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

## ブラジル

# 23年の鶏肉生産量、堅調な海外需要を背景に過去最大の見込み

### 23年1～9月の鶏肉生産量は前年同期比6.1%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2023年1～9月の鶏肉生産量は1013万2000トン（前年同期比6.1%増）と前年同期をかなりの程度上回り、IBGEが統計を取り始めた1997年以降最大となった（図1）。これは、海外からの堅調な需要を背景として、生産者の増産意欲が継続したためとみられる。また、同期間の処理羽数は、47億5200万羽（同4.6%増）となった。

近年の鶏肉生産量を見ると、2022年まで4年連続で増加している。サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、23年の鶏肉生産量は過去最大と見込まれており、24年についても海外からの堅調な需要を背景に増加基調での推移が予測されている。

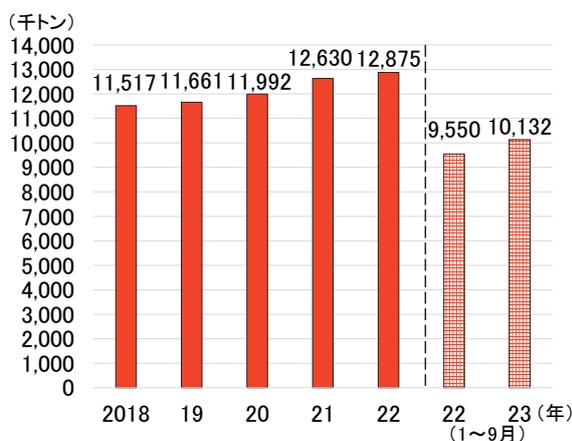
### 23年の鶏肉輸出量は海外からの堅調な需要により前年比8.4%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2023年の鶏肉輸出量は473万2539トン（前年比8.4%増）と前年をかなりの程度上回った（表）。これは、米国など主要鶏肉生産国での高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生やウクライナ情勢などの影響で鶏肉流通量が減少し、ブラジル産鶏肉への需要が高まったためとみられる。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは68万2282トン（同26.4%増）と前年の落ち込みから大幅に回復した。これは、中国が米国のほかアルゼンチン、トルコ、チリなどに対しHPAIに関連した輸入規制を強化したことによるものである。このほか、中国と同様に鶏肉の輸入規制を強化した南アフリカ共和国向け（同19.9%増）やインフレ対策として一時的な輸入関税の無税を措置したメキシコ向け（同22.8%増）も前年を大幅に上回った。また、日本向け（同4.2%増）は、ブラジルでのHPAIの発生による一時的な輸出停止により、8～10月の各月の輸出量が前年同月比で2割ほど減少したが、その後回復し前年をやや上回った。

一方、総輸出額（同1.1%増）については、輸出単価が低下したため、前年をわずかに上回る水準にとどまった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：IBGE

注：2022、23年は速報値。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

	2022年			23年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	539,682	1,343,376	2,489	682,282	1,608,611	2,358	26.4%	19.7%	▲5.3%
アラブ首長国連邦	442,955	947,429	2,139	438,663	882,296	2,011	▲1.0%	▲6.9%	▲6.0%
日本	410,609	943,892	2,299	427,956	947,067	2,213	4.2%	0.3%	▲3.7%
サウジアラビア	340,128	843,701	2,481	376,576	843,088	2,239	10.7%	▲0.1%	▲9.7%
南アフリカ共和国	283,353	187,008	660	339,858	196,295	578	19.9%	5.0%	▲12.5%
フィリピン	244,911	284,523	1,162	217,470	198,374	912	▲11.2%	▲30.3%	▲21.5%
韓国	185,377	407,202	2,197	201,734	414,649	2,055	8.8%	1.8%	▲6.4%
メキシコ	139,737	334,237	2,392	171,567	367,316	2,141	22.8%	9.9%	▲10.5%
その他	1,779,866	3,401,762	1,911	1,876,433	3,333,163	1,776	5.4%	▲2.0%	▲7.1%
合計	4,366,618	8,693,131	1,991	4,732,539	8,790,858	1,858	8.4%	1.1%	▲6.7%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

## 23年の鶏肉卸売価格は前年より1割程度低下

CEPEAによると、直近（2024年2月23日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり7.40リアル（225円：1リアル＝30.44円<sup>注</sup>、前年同期比3.9%高）となった（図2）。価格の推移を見ると、23年は国内での記録的な鶏肉生産量による鶏肉需給の緩和に加え、牛肉や豚肉との価格差の縮小による鶏肉の価格競争力低下から、4～7月にかけて急落し、7月には同5.66リアル（172円）と高値時から3割程度下落した。その後は、鶏肉供給量の抑制などにより需給が改善したことで、価格は上昇に転じたが、年間では、高水準となった22年の価格を1割程度下回った。23年

10月以降の同価格は、同7リアル台で推移している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 サンパウロ州の鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の推移



資料：CEPEA

注：名目価格。

（調査情報部 井田 俊二）

## 中国

# 23年の鶏肉生産量は前年を上回るも、価格は下落

### 23年の家きん肉生産量は前年比増

中国国家统计局によると、2023年の家きん総出荷羽数は168億2000万羽（前年比4.2%増）、生産量は2563万トン（同4.9%増）となり、いずれも前年をやや上回った。また、同年末の家きん飼養羽数は67億8000万羽（同0.2%増）となった。現地関係者によると、同国の飼養羽数を左右する白羽肉鶏原種鶏の輸入および更新量について、23年は高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響を受けた前年を3割上回ったとされている。中国農業農村部によると、23年上期（1～6月）の家きん肉生産は前年を上回る安定的な供給

になったが、鶏肉価格の下落に伴い生産者の収益性が悪化したことで、下期（7～12月）の生産規模は縮小傾向になったとされる。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の直近の見通しによると、23年の中国の鶏肉生産量<sup>（注1）</sup>は1480万トン（同3.5%増）と、過去最高を記録した21年と同等の水準が見込まれているが、24年は収益性の低下などを要因に23年を下回ると予測されている（表1）。

（注1）同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」2 肉用鶏産業の概要（1）家きん産業における肉用鶏産業の位置付け（[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_001123.html#title3](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001123.html#title3)）を参照されたい。

表1 中国の鶏肉需給

（単位：万トン）

	2021年	22年	23年	24年 （予測）
生産量	1,470	1,430	1,480	1,387
輸入量	79	63	77	77
輸出量	46	53	55	55
国内消費量	1,503	1,440	1,451	1,409

資料：USDA/FAS

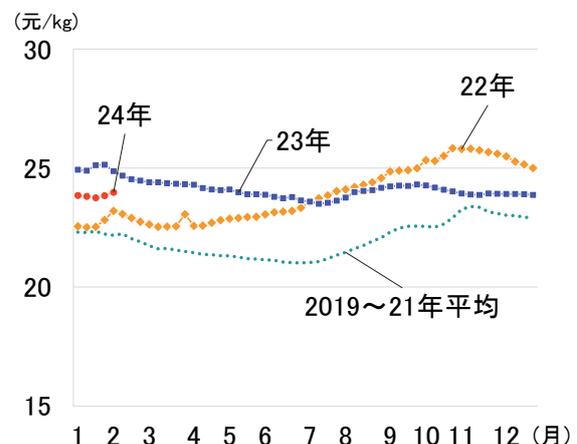
注：もみじ（鶏足）は含まない。

### 23年の鶏肉価格はおおむね下落傾向

中国農業農村部によると、2024年2月第1週の鶏肉市場価格は、1キログラム当たり24元（508円：1元＝21.18円<sup>（注2）</sup>、前年同期比3.6%安）と前年同期をやや下回った（図）。

中国の鶏肉消費動向についてUSDA/FASによると、23年は新型コロナウイルス感染症の影響緩和から、主要都市では外食需要が回復したが、地方都市では従来の消費習慣から外食をぜいたくと捉える消費者が依然として

図 鶏肉市場価格の推移



資料：中国農業農村部

多く、外食を控える傾向が見られるとされる。これに加えて、24年は景気の動向に悲観的な消費者が外食頻度を減らすことで、鶏肉消費量が減少する可能性があるとされている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

## 23年の鶏肉輸入量は前年をわずかに下回る

2023年の冷凍鶏肉輸入量は、128万3093トン（前年比0.7%減）と前年をわずかに下回った（表2）。中国農業農村部によると、国内鶏肉供給量は十分であり、国内の鶏肉価格も下落傾向にあることで、輸入量は減少したとされている。

同年の米国からの中国向け鶏肉輸出についてUSDA/FASは、米国産はブラジル産に比べ品質の面で優位としつつも、HPAIによる米国産鶏肉の輸入制限が影響したとされている。また、24年についても、中国国内の減産が見込まれるものの、一方で輸入在庫が港湾倉庫を圧迫しているとして、輸入量を伸ばせる状態にはないと見込まれている。

## 23年の鶏肉調製品輸出量は前年をわずかに下回る

2023年の鶏肉調製品の輸出量は、29万9584トン（前年比1.9%減）と前年をわずかに下回った（表3）。主要な輸出先は引き続き日本であるが、英国やフィリピンなどの主要輸出先以外向けの輸出量も増加している。

表2 輸入先別輸入量の推移（冷凍鶏肉）

(単位：万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年	前年比 (増減率)
ブラジル	53.7	68.6	65.1	55.3	67.9	22.8%
米国	—	40.9	44.0	34.3	24.3	▲ 29.0%
ロシア	3.4	14.5	11.9	12.7	12.7	0.2%
タイ	7.1	11.7	10.4	8.5	11.6	37.5%
ベラルーシ	0.9	3.2	2.7	5.3	6.9	28.9%
その他	12.2	12.5	11.7	13.1	4.9	▲ 62.9%
合計	77.4	151.4	145.7	129.2	128.3	▲ 0.7%

資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコードは020714。

表3 輸出先別輸出量の推移（鶏肉調製品）

(単位：万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年	前年比 (増減率)
日本	19.3	16.1	18.0	19.3	17.2	▲ 10.7%
香港	2.9	3.0	3.7	3.8	3.8	▲ 1.0%
英国	0.9	0.6	0.8	1.8	2.5	37.9%
オランダ	1.3	1.0	1.4	1.8	2.0	11.2%
フィリピン	0.0	0.4	1.0	1.1	1.2	6.6%
その他	1.8	1.6	2.0	2.6	3.2	21.0%
合計	26.1	22.7	27.0	30.5	30.0	▲ 1.9%

資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコード160232。

(調査情報部 海老沼 一出)

# 牛乳・乳製品

E U

## 23年の生乳出荷量は前年並み、主要乳製品生産量は増加

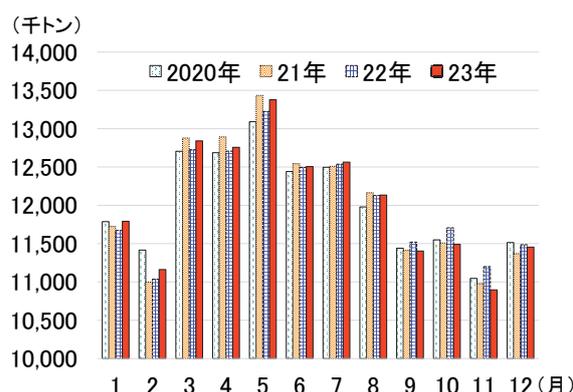
### 23年12月の生乳出荷量、前年同月並みとなる

欧州委員会によると、2023年12月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1145万4000トン（前年同月比0.3%減）と前年同月並みとなった（図1、表）。主要生産国別に見ると、ポーランド（同2.5%増）およびイタリア（同3.7%増）は前年同月を上回った一方、多くの国で前年同月を下回った。中でもアイルランド（同27.1%減）の減少率は前月に引き続き大きく、23年の累計生乳出荷量も前年比4.1%減となった。現地報道によると、秋以降の乳価が生産コストを下回ったことと、天候不順を受け生産者が通常より早期の乾乳を選択したためという。

23年上半期（1～6月）の生乳出荷量は、生乳取引価格が高水準であったことや欧州

北部の牧草生育が良好となったことで前年同期をわずかに上回った（前年同期比0.8%増、図2）。下半期（7～12月）は生乳取引価格が前年同期を大幅に下回ったことや、依然として高止まりにある生産コストにより前年同期をわずかに下回った（同0.9%減）。結果として23年の生乳出荷量は、前年並みとなった。

図1 生乳出荷量の推移（月別）



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

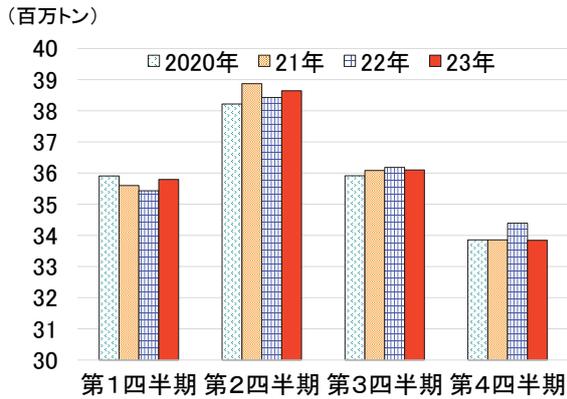
	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～12月)	
				前年比 (増減率)	前年比 (増減率)
ドイツ	2,662	2,650	▲ 0.4%	32,424	1.5%
フランス	1,979	1,973	▲ 0.3%	23,414	▲ 2.7%
オランダ	1,168	1,141	▲ 2.4%	13,894	1.0%
ポーランド	1,049	1,075	2.5%	13,021	1.9%
イタリア	1,045	1,084	3.7%	12,570	▲ 1.9%
アイルランド	291	212	▲ 27.1%	8,710	▲ 4.1%
スペイン	606	608	0.4%	7,330	0.2%
デンマーク	468	461	▲ 1.4%	5,685	0.4%
ベルギー	378	388	2.7%	4,664	3.3%
その他	1,839	1,861	1.2%	22,663	0.7%
合計	11,485	11,454	▲ 0.3%	144,376	▲ 0.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

図2 生乳出荷量の推移（四半期別）

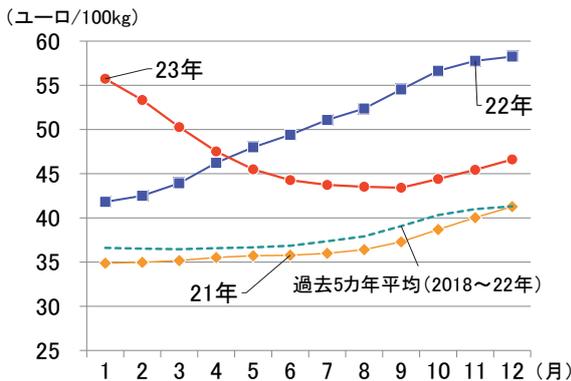


資料：欧州委員会「Eurostat」  
 注1：速報値。  
 注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

### 23年12月の生乳取引価格、3カ月連続で上昇

欧州委員会によると、2023年12月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり46.61ユーロ（7679円：1ユーロ＝164.75円<sup>注</sup>、前年同月比20.0%安）と前年同月を大幅に下回った（図3）。ただし、前月比では2.6%高となり、3カ月連続で前月をわずかに上回った。

図3 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」  
 注1：直近月は推定値。  
 注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

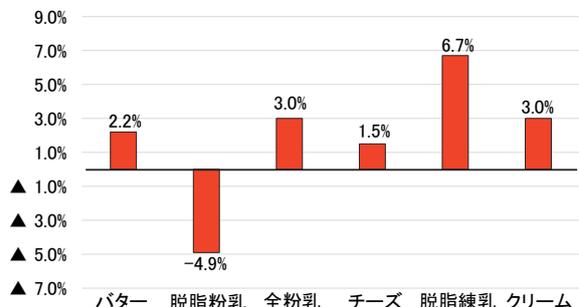
なお、生乳取引価格の上昇は9月以降の乳製品価格の上昇と連動しているが、直近の乳製品価格はおおむね横ばいで推移している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

### 23年の主要乳製品生産量、脱脂粉乳を除き前年比増

欧州委員会によると、2023年（1～12月）の乳製品生産量は、バター（前年比2.2%増）、全粉乳（同3.0%増）、チーズ（同1.5%増）、脱脂練乳（同6.7%増）およびクリーム（同3.0%増）がいずれも増加した（図4）。前述の通り生乳出荷量は前年並みとなったが、現地報道によると、夏の気候が安定しており熱波が比較的少なかったため、平均乳脂肪分が4.1%と前年を上回り、アイルランドでは過去最高の4.3%を記録したとされる。一方、リビアやサウジアラビア向けなどの輸出需要を背景とする脱脂練乳生産量の増加により、脱脂粉乳（同4.9%減）の生産量は前年を下回った。

図4 主要乳製品生産量（2023年1～12月）の対前年増減率



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部 渡辺 淳一）

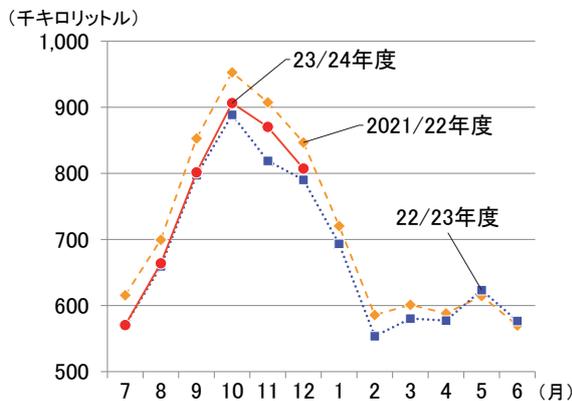
## 23/24年度上半期の生乳生産量、前年同期を上回る

### 24年12月の生乳生産量、8カ月連続で前年同月を上回る

デイリー・オーストラリア（DA）によると、2023年12月の生乳生産量は、前年同月比2.2%増の80万7286キロリットル（83万1504トン相当）となった（図1）。生乳生産量が前年同月を上回るのは8カ月連続となる。この結果、23/24年度上半期（7～12月）の累計生乳生産量は、前年同期比2.1%増の461万9739万キロリットル（475万8331トン相当）となった。前々年度（21/22年度）の同期間との比較では5.2%減となるが、酪農家戸数の減少や労働力不足の影響がある中で、高い生乳生産者価格が増産を後押ししている。

一方、豪州のRURAL BANK（注1）が公表した2月の酪農動向に関する報告によると、23/24年度の生乳生産量は、前年度を超える勢いで推移しているものの、過去平均（注2）を下回る約820万～830万キロリットル（約845万～855万トン相当）となる可能性が高いと予測されている。

図1 生乳生産量の推移



資料：DA  
注：年度は7月～翌6月。

（注1）2000年に設立され、豪州の農村部を中心に400以上の拠点を持つ銀行。

（注2）同報告中に期間や数値の記載はないが、生乳生産量の過去5カ年平均は約860万キロリットル（886万トン相当）。

### 23年12月の乳製品輸出量、主要乳製品2品目で増加

DAが発表した2023年12月の主要乳製品4品目の輸出量は、品目によって大きく異なる動きを見せた（表、図2）。

脱脂粉乳は、ベトナムやマレーシアなど東南アジア向けが好調に推移したものの、中国向けが大きく減少したことを受け、前年同月比で減少した。全粉乳は、タイ向けは好調に推移したものの、中国をはじめとする他のアジア諸国やアラブ首長国連邦向けが減少したことを受け、大幅に減少した。バターおよびバターオイルは、米国や中国向けが好調であったことを受け、大幅に増加した。チーズについても、輸出先第1位の日本向けは減少したものの、同第2位の中国やマレーシア向けが好調に推移したことを受け、増加した。

DAが2月に公表した乳製品市場動向に関する報告によると、近年、豪州の乳製品輸出量の約4割を占める中国向けについて、同国内での生乳生産量の急増から乳製品の在庫が積み増しており（注3）、消費需要も低いことから、24年を通して低迷が続くと予測されている。一方で、東南アジアを中心に、所得の向上や人口の増加、食生活の変化が起きており、引き続き乳製品に対する需要の高まりが見込まれることから、豪州の乳製品輸出の見通しは明るいといわれている。

（注3）『畜産の情報』2024年1月号「生乳生産量は引き続き増加、乳価の下落は止まらず」（[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003047.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003047.html)）を参照されたい。

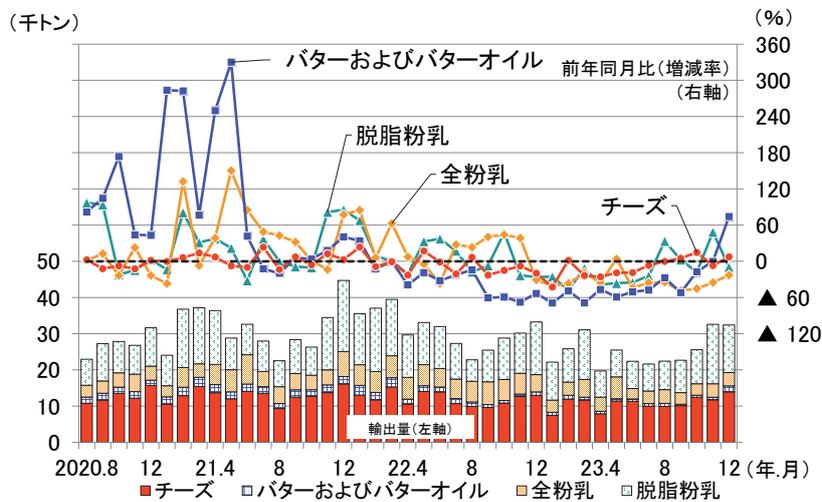
表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	23/24年度	前年同期比 (増減率)
				(7～12月)	
脱脂粉乳	14,561	13,151	▲ 9.7 %	63,264	2.8 %
全粉乳	4,770	3,676	▲ 22.9 %	21,031	▲ 37.6 %
バターおよびバターオイル	950	1,654	74.2 %	4,916	▲ 14.4 %
チーズ	12,961	13,930	7.5 %	68,054	2.1 %

資料：DA  
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA  
注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

N Z

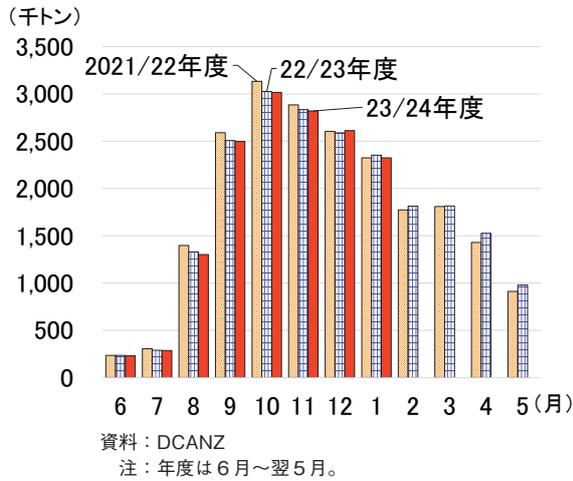
## GDT平均価格が続伸、23/24年度の生産者支払乳価は引き上げへ

### 24年1月の生乳生産量、再び前年同月割れに転じる

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年1月の生乳生産量は232万4000トン（前年同月比1.2%減）とわずかに減少した（図1）。23年12月の生乳生産量は7カ月ぶりに前年同月を上回ったことで今後の増産が期待されたが、再び前年同月割れに転じた。この要因についてニュージーラ

ンド証券取引所（NZX）は、エルニーニョ現象の影響が強まり、降雨量が減少したことで、牧草の生育不順となったことを挙げている。また、ニュージーランド国立水・大気研究所（NIWA）によると、主要生乳生産地帯である北島のノースランド地方および南島の大部分では、24年3月下旬まで平年より乾燥した気候が予想されており、今後の生乳生産への影響が懸念される。

図1 生乳生産量の推移



## 24年1月の乳製品輸出量、全粉乳と脱脂粉乳が大幅増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年1月の乳製品輸出量は、チーズを除く主要3品目で前年同月を上回った（表、図2）。品目別では、全粉乳および脱脂粉乳が最大の輸出先である中国やマレーシア向けの伸びからそれぞれ大幅に増加した。また、バターおよびバターオイルは主要輸出先である豪州向けが減少したものの、最大の輸出先である中国向けの大幅な増加から、かなり

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2023年 1月	24年 1月	前年同月比 (増減率)	23/24年度 (7月～翌1月)	
				23/24年度 (7月～翌1月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	49,852	60,159	20.7%	259,539	11.9%
全粉乳	118,907	147,435	24.0%	810,275	4.7%
バターおよびバターオイル	41,466	44,341	6.9%	266,999	▲ 0.0%
チーズ	34,726	31,378	▲ 9.6%	206,171	1.7%

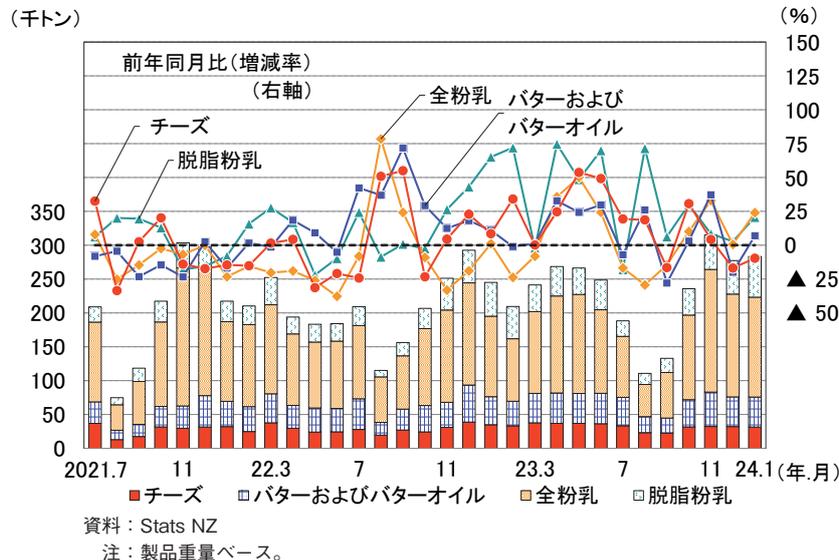
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



の程度増加した。一方、チーズは最大の輸出先である中国向けをはじめ、主要輸出先のマレーシア、日本、韓国向けがそれぞれ減少したことでかなりの程度減少した。

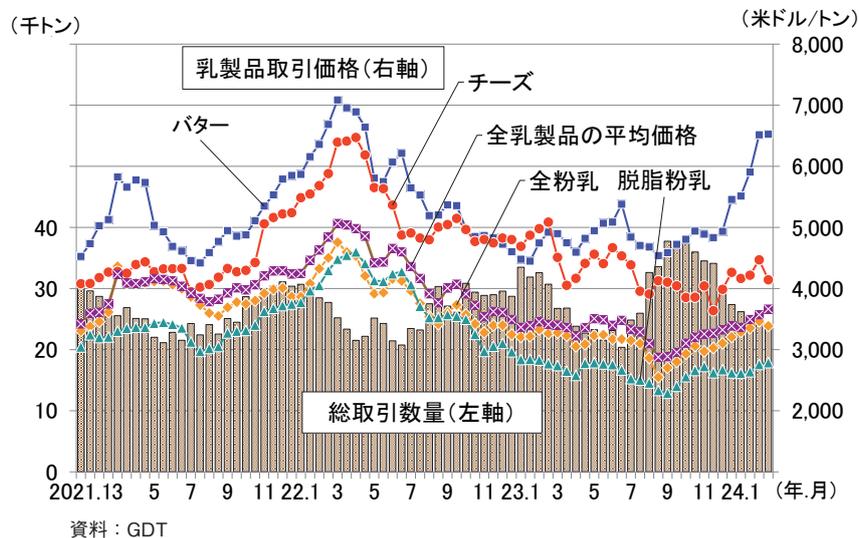
## 24年2月中旬のGDT価格、脱脂粉乳とバターが続伸

2024年2月20日開催のGDT<sup>(注1)</sup>平均取引価格は、脱脂粉乳とバターが前回開催（同年2月6日）時の価格を上回り、特にバターはアジアからの引き合いが強まったことで1トン当たり6526米ドル（98万9798円：1米ドル＝151.67円<sup>(注2)</sup>、前回比0.2%高）と22年4月以来の高値となった（図3）。また、全乳製品の平均取引価格は同3664米ドル（55万5719円、同2.6%高）と依然とし

て上昇基調にある。このような中で、NZ乳業最大手のフォンテラ社は24年2月12日、23/24年度（6月～翌5月）の生産者支払乳価を生乳の固形分<sup>(注3)</sup>1キログラム当たり平均0.3NZドル（28円：1NZドル＝93.76円<sup>(注2)</sup>）引き上げ、同7.8NZドル（731円）にすると発表した<sup>(注4)</sup>。引き上げの理由について同社のハレル最高経営責任者は、最近のGDT価格の上昇を踏まえたものと発表した。

（注1）グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。  
 （注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。  
 （注3）乳脂肪分および乳タンパク質。  
 （注4）海外情報「フォンテラ社、23/24年度生産者支払乳価の引き上げを発表（NZ）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003714.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003714.html)）を参照されたい。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



（調査情報部 工藤 理帆）

# 飼料穀物

## 世界

### ブラジルのトウモロコシ生産量は下方修正も、世界の生産量は過去最大の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、2024年2月8日、23/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は12億3257万トン（前年度比6.6%増）と前月から316万トン下方修正された。今年度は米国や中国の増産により過去最大の生産量が見込まれている。このうち、最大の生産国である米国、これに次ぐ中国はいずれも前月から据え置かれた。一方でブラジルは、エルニーニョ現象の影響による乾燥懸念により前月から300万トン下方修正され、2カ月続けての減少となった。

輸入量は、世界全体で1億8982万トン（同10.0%増）と前月から94万トン下方修正された。このうち、EUは前月から50万トン下方修正された。

消費量は、世界全体で12億1076万トン

（同3.8%増）と前月から31万トン下方修正された。このうち、EUは前月から30万トン下方修正された。

輸出量は、世界全体で2億82万トン（同11.0%増）と前月から7万トン下方修正された。このうち、ブラジルは生産量の減少見込みを受けて前月から200万トン下方修正されたが、ウクライナが前月から200万トン上方修正されたことで、ブラジルの減少分を補う形となった。

この結果、期末在庫は3億2206万トン（同7.3%増）と前月から316万トン下方修正されたが、前年度からかなりの程度の増加が見込まれている。

現地情報によると、今回修正されたブラジルの生産量に関し、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）が公表した直近の生産量予測（1億1370万トン）を1030万トン上回っていることで、今後、より大きな下方修正の可能性が予想されている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2024年2月8日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2021/22 年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度			
			(1月予測)	(2月予測)	前年度比 (増減率)	
米 国	期首在庫	31.36	34.98	34.55	34.55	▲ 1.2%
	生産量	381.47	346.74	389.69	389.69	12.4%
	輸入量	0.62	0.98	0.64	0.64	▲ 34.7%
	消費量	315.67	305.95	316.63	316.37	3.4%
	輸出量	62.80	42.20	53.34	53.34	26.4%
	期末在庫	34.98	34.55	54.91	55.17	59.7%
ブラジル	期首在庫	4.15	3.97	10.27	10.27	2.6倍
	生産量	116.00	137.00	127.00	124.00	▲ 9.5%
	輸入量	2.60	1.30	1.20	1.20	▲ 7.7%
	消費量	70.50	76.00	77.50	77.50	2.0%
	輸出量	48.28	56.00	54.00	52.00	▲ 7.1%
	期末在庫	3.97	10.27	6.97	5.97	▲ 41.9%
アルゼンチン	期首在庫	1.18	1.80	1.11	1.11	▲ 38.3%
	生産量	49.50	35.00	55.00	55.00	57.1%
	輸入量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	14.20	11.70	14.10	14.10	20.5%
	輸出量	34.69	24.00	41.00	41.00	70.8%
	期末在庫	1.80	1.11	1.03	1.03	▲ 7.2%
ウクライナ	期首在庫	0.83	7.80	2.80	2.80	▲ 64.1%
	生産量	42.13	27.00	30.50	30.50	13.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	8.20	4.90	5.50	5.00	2.0%
	輸出量	26.98	27.12	21.00	23.00	▲ 15.2%
	期末在庫	7.80	2.80	6.82	5.32	90.0%
E U	期首在庫	7.83	11.39	7.23	7.23	▲ 36.5%
	生産量	71.55	52.40	60.10	60.10	14.7%
	輸入量	19.74	23.15	23.50	23.00	▲ 0.6%
	消費量	81.70	75.50	79.20	78.90	4.5%
	輸出量	6.03	4.21	4.20	4.20	▲ 0.2%
	期末在庫	11.39	7.23	7.43	7.23	0.0%
中 国	期首在庫	205.70	209.14	206.04	206.04	▲ 1.5%
	生産量	272.55	277.20	288.84	288.84	4.2%
	輸入量	21.88	18.71	23.00	23.00	22.9%
	消費量	291.00	299.00	306.00	306.00	2.3%
	輸出量	0.00	0.01	0.02	0.02	2.0倍
	期末在庫	209.14	206.04	211.86	211.86	2.8%
世界計	期首在庫	292.94	310.50	300.56	300.25	▲ 3.3%
	生産量	1215.93	1155.94	1235.73	1232.57	6.6%
	輸入量	184.45	172.58	190.76	189.82	10.0%
	消費量	1198.37	1166.19	1211.07	1210.76	3.8%
	輸出量	206.64	180.99	200.89	200.82	11.0%
	期末在庫	310.50	300.25	325.22	322.06	7.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 横田 徹)

## ブラジルの大豆生産は下方修正も、 期末在庫は引き続き前年度増

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年2月8日、23/24年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は3億9821万トン（前年度比5.3%増）と前月から77万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは、主産地のマツグロ

表 主要国の大豆需給見通し（2024年2月8日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		前年度比 (増減率)
			(1月予測)	(2月予測)	
米国					
期首在庫	6.99	7.47	7.19	7.19	▲ 3.7%
生産量	121.50	116.22	113.34	113.34	▲ 2.5%
輸入量	0.43	0.67	0.82	0.82	22.4%
消費量	59.98	60.20	62.60	62.60	4.0%
輸出量	58.57	54.21	47.76	46.81	▲ 13.7%
期末在庫	7.47	7.19	7.62	8.57	19.2%
ブラジル					
期首在庫	29.58	27.60	35.35	37.35	35.3%
生産量	130.50	162.00	157.00	156.00	▲ 3.7%
輸入量	0.54	0.15	0.45	0.45	200.0%
消費量	50.71	53.10	53.75	53.75	1.2%
輸出量	79.06	95.51	99.50	100.00	4.7%
期末在庫	27.60	37.35	35.80	36.30	▲ 2.8%
アルゼンチン					
期首在庫	25.06	23.90	17.21	17.21	▲ 28.0%
生産量	43.90	25.00	50.00	50.00	100.0%
輸入量	3.84	9.06	6.10	6.10	▲ 32.7%
消費量	38.83	30.32	35.50	35.50	17.1%
輸出量	2.86	4.19	4.60	4.60	9.8%
期末在庫	23.90	17.21	25.96	25.96	50.8%
中国					
期首在庫	30.86	29.25	33.79	33.79	15.5%
生産量	16.40	20.28	20.84	20.84	2.8%
輸入量	90.50	100.85	102.00	102.00	1.1%
消費量	87.90	95.00	98.00	98.00	3.2%
輸出量	0.10	0.09	0.10	0.10	11.1%
期末在庫	29.25	33.79	36.03	36.03	6.6%
世界計					
期首在庫	100.27	98.03	101.87	103.57	5.7%
生産量	360.41	378.06	398.98	398.21	5.3%
輸入量	155.51	164.38	168.35	167.85	2.1%
消費量	314.50	314.21	329.40	329.29	4.8%
輸出量	154.22	171.96	170.94	170.57	▲ 0.8%
期末在庫	98.03	103.57	114.60	116.03	12.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

ソ州南部や同国北東部での高温と乾燥懸念により前月から100万トン下方修正され、2カ月続けての減少となった。これに次ぐ米国、干ばつの影響が懸念されていたアルゼンチンはいずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億6785万トン（同2.1%増）と前月から50万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億200万トン（同1.1%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2929万トン（同4.8%増）と前月から11万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は9800万トン（同3.2%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億7057万トン（同0.8%減）と前月から37万トン下方修正され

た。このうち、最大の輸出国であるブラジルは前月から50万トン上方修正され、これに次ぐ米国は前月から95万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は1億1603万トン（同12.0%増）と前月から143万トン上方修正され、引き続き前年度水準をかなり大きく上回っている。

現地情報によると、今回下方修正されたブラジルの生産量に関し、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）が公表した直近の生産量予測（1億4940万トン）を660万トンも上回っていることで、今後、さらなる下方修正の可能性が予想されている。

（調査情報部 横田 徹）

## 米 国

### 米国のトウモロコシ生産、輸出量は大幅増も、生産者平均価格は下落見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2024年2月8日、23/24年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、153億4200万ブッシェル（3億8970万トン<sup>（注1）</sup>、前年度比12.4%増）と前月から据え置かれた。乾燥気候から当初は一部地域で単収の落ち込みが懸念されたものの、天候の好転による単収の増加などから過去最大の生産量が見込まれている。

米国内消費量は、エタノールや飼料向け需要は伸びるものの、異性化糖向けの減少が見込まれることで124億5500万ブッシェル（3億1637万トン、同3.4%増）と前月から下方修正された。

輸出量は、21億ブッシェル（5334万トン、

同26.4%増）と前月から据え置かれ、引き続き大幅な増加が見込まれている。

期末在庫は、生産量の増加と消費量の減少を受けて21億7200万ブッシェル（5517万トン、同59.7%増）と前月から上方修正され、引き続き大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、14.9%（同5.0ポイント増）と前月から0.1ポイント上昇し、前年度を上回る水準が見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.80米ドル（728円。1キログラム当たり28.7円：1米ドル＝151.67円<sup>（注2）</sup>、同26.6%安）と大幅な下落が見込まれている。

(注1) 1 ブッシェルを約25.401キログラム、1 エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し (2024年2月8日米国農務省公表)

区分	-単位-	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度			
				(1月予測)	(2月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	92.9	88.2	94.6	94.6	38.28 (百万ヘクタール)	7.3%
収穫面積	(百万エーカー)	85.0	78.7	86.5	86.5	35.01 (百万ヘクタール)	9.9%
単収	(ブッシェル/エーカー)	176.7	173.4	177.3	177.3	11.13 (トン/ヘクタール)	2.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,360	1,360	34.55 (百万トン)	▲1.2%
生産量	(百万ブッシェル)	15,018	13,651	15,342	15,342	389.70 (百万トン)	12.4%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	39	25	25	0.64 (百万トン)	▲35.9%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,277	15,066	16,727	16,727	424.88 (百万トン)	11.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,427	12,045	12,465	12,455	316.37 (百万トン)	3.4%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,671	5,486	5,675	5,675	144.15 (百万トン)	3.4%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,757	6,558	6,790	6,780	172.22 (百万トン)	3.4%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,320	5,176	5,375	5,375	136.53 (百万トン)	3.8%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,472	1,661	2,100	2,100	53.34 (百万トン)	26.4%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,900	13,706	14,565	14,555	369.71 (百万トン)	6.2%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	2,162	2,172	55.17 (百万トン)	59.7%
期末在庫率	(%)	9.2	9.9	14.8	14.9		5.0ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.00	6.54	4.80	4.80	28.7 (円/kg)	▲26.6%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1 ブッシェルは約25.401キログラム、1 エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 横田 徹)

## 中国

### トウモロコシおよび大豆の価格動向

#### 24年1月の国産トウモロコシ価格、需要増から高値安定での推移を予想

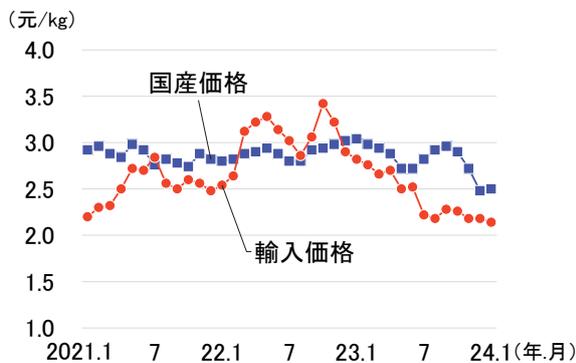
中国農業農村部は2月18日、「農産物需給動向分析月報(2024年1月)」を公表した。この中で、24年1月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した(図1)。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では2月の春節前の現金化を図るべく農家の出荷が増えたことで、市場供給量は潤沢であった

とされている。一方、需要面では豚肉価格の低迷により飼料需要の落ち込みが続くことで、取引業者の購入量は限られるとされている。このため、需給は緩和傾向にあるが、生産地での適切な貯蔵管理や春節明けの加工企業の本格稼働などから需給が均衡に向かうことで、今後、価格は安定した推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積

地となる広東省黄埔港到着（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、24年1月が1キログラム当たり2.14元（45円：1元=21.18円<sup>（注1）</sup>）となった。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.50元（53円）となったことで、輸入と国産との価格差は先月の同0.30元（6円）から同0.36元（8円）に広がった。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成  
 注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。  
 注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

## 国産大豆価格、潤沢な供給により弱含みで推移と予想

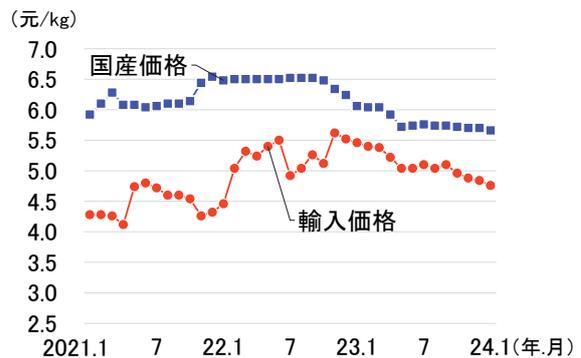
2024年1月の国産大豆価格は、前月からわずかに下落した（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では春節を控えた中で主産地からの潤沢な供給が伝えられている。一方、需要面では春節を控えて川下の動きが引き続き緩慢な状況にあるとされている。このため、需給は緩和傾向にあり、また、主産地の在庫水準は高いながらも春節後の需要回復予想から、今後、価格は弱含みながらも安定した推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年1月が1キログラム当たり4.78元（101円、前年同月比12.3%安）と前年同月をかなり大きく下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.66元（120円、同6.6%安）とかなりの程度下回った。また、同月の輸入大豆価格（山東省青島港引き渡し価格、課税後）が同4.76元（101円）となったことで、輸入と国産との価格差は先月の同0.86元（18円）から同0.90元（19円）に広がった。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて高い水準で推移している。24年（1～12月）の輸入量は9940万トン（前年比11.4%増）、輸入額は同0.5%減の597億5500万米ドル（9兆630億円：1米ドル=151.67円<sup>（注1）</sup>）と報告されている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年2月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成  
 注1：国産価格は、山東省入荷価格。  
 注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

## 2024年中央1号文書を発表、農村の全面的振興を推進

中国共産党中央委員会と中国国務院は2024年2月3日、「2024年中央1号文書」を発表した。この中央1号文書は、その年の最初に発出される最も重要な政策とされ、04年以降、21年連続して「三農（農業、農村、農民）」の問題に対処したものとなる。

今年の中央1号文書では六つの項目<sup>(注2)</sup>が示されており、昨年に続き穀物や重要な農畜産物に焦点を当て、生産の安定と供給の確保を明確に指示している。

今回の発表に際し中国国務院は、最初の項目である「国家の食糧安全保障の確保」に関し、「穀物の貯蔵」と「単収の向上」がカギとしている。中国全体を見ると、穀物

需給は均衡とは言えない状況であることから、主産地での管理と消費地への輸送を確立させるための定温倉庫や流通の整備、優良種子の開発などを促すものとみられる。また、農民への穀物栽培を促すものとして、現行のトウモロコシや大豆栽培などに対する補助金の継続に加え、所得補償としての保険（トウモロコシや大豆生産など）の適用範囲の拡大など、包括的な取り組みを行うことが必要としている。

(注2)「国家の食糧安全保障の確保」「大規模な再貧困化発生防止の確保」「農村産業発展レベルの向上」「農村建設レベルの向上」「農村ガバナンスレベルの向上」「『三農』の取り組みに対する党の全面的指導の強化」。

(調査情報部 横田 徹)